

3. 防災はあいかたい

防災は、災害が発生することを前提にした事前の備えと、発生したときの被害を最小化するという目的にさまざまな面から、さまざまな方法が工夫されています。特に、事前の対策は重要で、明瞭な効果の発揮が期待される反面、災害の状況によってはその場での修正を求められることがあり、防災のプロセスの過程で直感力や応力能力を身につけることが重要なテーマになります。加えて、事前に対策をしておけば、トータルコストの面で貢献できる可能性はありますが、定量的な評価は難しい。しかし、自分が助かることで、家族や隣人を助けることができるし、公助がスムーズに実施できるよう支援する縁の下の基礎力にもなります。防災において最も基本的なことは、居住している地域のことを知ることです。その地域にどんな自然災害のリスクがあるのか、それを回避するためには何が必要なことなのかを理解することが被害を最小にすることにつながります。人間が誕生して、これまで自然現象による恵みとともに災害を経験してきました。しかし時間がたつと、その経験や伝承が薄れてしまって、これまで避けてきたところにまで居住域を拡大してきました。自然現象は地球の気象システムに支配されることは当然として、それによる自然災害はわれわれの暮らし方にも関係します。つまり、利便性だけを求めて自然のシステムを無視した行動をすることが、災害の規模や頻度を増す要因にもなっています。防災対策としては自然現象に対しては無力ですが、その影響を極力受けないこと、例えば抵抗力をつけるとか、早期に想定して避難するなどになります。そして、それに対して最も大切なことは、どんな災害想定され、地域のどんなところが弱いのかという地域特性を理解したうえで暮らすことが大切になります。その防災によって、発生時に適切な行動もできるし、錯綜する情報の選別も可能になります。日ごろから自然災害に関心を持ち、他地域の事例を参考にして、自分たちの地域に当てはめてシミュレーションするということが基礎力になると思います。実際の災害は、想定外のことが多いし、即座に判断することも求められますが、そこで発揮することができるのは直観力だと思います。いかに、安全で安心な生活環境を維持していくのかは大変重要なことですし、わが国では自然災害に無関係に生活することはできません。そのような災害に関心を持つことは、今後の人口減少する社会では、多くの課題を有しながらも持続可能な福祉社会が大きな柱になります。また、防災はさまざまな面を有していることから、現状を見て、先を読み、資源を活用して減災に対応するという一方で、災害列島に生きる賢い生活スタイルが生まれていくのだと思います。